

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～謹賀新年！！・・・・・・・・お年玉～

あけましておめでとうございます。

さて、お正月といえば「お年玉」をもらった人も多いことでしょう。

今年最初の生徒指導部通心（信）は・・・



24歳になる青年が来春、大学院を卒業し社会人になります。また、彼の妹も4年生大学を来春卒業し、兄と同じ社会人になります。

父親は、彼が大学に入学したとき、自分の部屋に彼を呼び一つの封筒を渡しました。その中には、一万円札が数枚。父親は一言「必要になったらこれを使いなさい」

と彼に伝えました。妹にも大学入学時に、同じように一万円札を数枚入れて、父親は渡しました。

二人は、大学へ行くために家から離れたところでそれぞれが生活を始めました。

あるとき、妹がお金が必要になって、父親からもらった封筒を開けようとし、兄に相談をしました。

しかし、兄は妹に・・・

「そのお金は、卒業するまで使ったらダメ。普通のお金じゃないんだ。親父の『しっかり学校生活を送れよ』っていう思いがあるお金なんだ。それを使っちゃうと、何かが途切れる感じがするんだ。だから卒業するまでは使ったらダメだよ。」

と言いました。妹は、兄の言葉に何かを感じ、その封筒を開けずに、かばんにしまいました。

（中略）

今年の秋、彼が自宅に帰ってきたときに、父親にこの封筒のお金のことを話し出したのです。

「俺、大学入学の時にお父さんからもらったあの封筒を取ってあるんだ。これ、大学を卒業するとき、全部返すね。」

といきなり話し出したのです。父親は、いきなり何の話をするのかと驚いていると、彼は・・・

「来年の4月からは、俺がお年玉をあげる立場になるから」

と笑いながら言うのです。父親は言葉を失いました。そして目にたまった涙が分からないように、そっとその場から離れました。

この兄妹は高校合格の時、親に言われました。「『合格おめでとう』と言いたいけど、そうじゃないよね。『高校へ行かせていただき、ありがとう』というのが本当かもね。」

妹は、友だちが家族で高校合格のお祝いをしているということを聞きながらも、高校合格の日、家族の夕飯を作り、家族みんなに・・・「ありがとう。」と言っていたのです。

そして、その日の夕飯は、家族の思いがいっぱいの時間になりました。妹が作った料理を囲み、中学時代のこと、そして高校でどんな生活をしたいのか。

親の自分の高校時代の話もしたのです。時間が過ぎるのも忘れ、家族団らんの時間になったのです。



皆さんもこれから様々なことを学び、支えてくれている人への感謝を感じながら、社会人になっていくことでしょう。

よく、人に「優しく」とか、「思いやり」の心を大切にしようという言葉を目にしますが・・・

まず大切なことは、最も身近な人に対する「感謝」の気持ちなんです。

感じていますか？感じているのなら伝えられていますか？・・・日頃の行動に現せてますか？

是非、感謝が伝わる、感謝を行動に移せる1年にしてくださいね。